

今年も花の旅

8期 篠島益夫

今年もコロナとの共生を余儀なくされて運動不足による体力ダウン、妻の新たな変調による経過観察と続行する検査が加わって動きにくい1年でした。孫達との数年来の「花の白山ツアー」も部活やアルバイトなどの孫達の都合や天候に乱されて今年も実施出来ませんでした。

私がいつまでも白山登山に付き合える体力ではないのですが孫達は気が付いてくれません。

残り少ない人生終盤になってコロナに命の余白の活動を奪われるのには腹が立ちますが何ともできません。同じ気持ちをお持ちのワングル仲間も私だけではないでしょう、そんな気分をどなたかに話したら、「ぜいたく言うな、今まで元気に暮らせた事に感謝しなさい」と言われてしまいました。

こんな有様ですから、昨年に続き今年も遠方と長期間の旅を避けて出来るだけ近辺寄りでの花の旅を心掛けていました。しかし、昨今は距離と時間とコストが比例しない時代ですからコロナを避けながら時間とコストを考えて以下のようなささやかな花の旅をしました。

2022・0308～09 丹波・丹後の旅

0308 例年この時期に出かける丹波篠山市追入のセツブンソウは見頃でしたがイチゲは蕾が膨らみかけたところでした。



兵庫県丹波篠山市追入・セツブンソウ

この後、舞鶴の高水間宅で夫妻と合流して、まだ雪の残る宮津市の真言宗成相寺からの天橋立の展望や本尊の聖観音菩薩を見て伊根湾展望所から伊根温泉の民宿へ。温泉を堪能してから注文のブリシャブを、雅号を持つおかみさんの書と絵を見せて貰いながら堪能しました。

0309 伊根湾クルーズや丹後半島間人の静御前ゆかりの神社などを巡りました。

0405～0408 伊豆のさくらと河津七滝巡り

今年は関西ではなく伊豆で桜を愉もう、という趣旨で今回も伊豆高原の9期山中氏の別荘を基地に伊豆のさくら巡りを始めました。伊豆は丁度、さくらが満開の時期で山中別荘の「仙台しだれさくら」も伊豆高原のさくら並木も大室山桜の里も今までにない伊豆のさくらを満喫しました。

6日は各地のさくらを巡りながら河津温泉に宿泊、翌7日は河津温泉から出発して思いがけない急登もある河津七滝巡りを終えました。伊豆滞在中は好天に恵まれ、山中氏お薦めの料理店でメニューも堪能できました。



0405 伊豆高原山中別荘・仙台しだれ桜

0413 京丹後市・花の旅

高水間さんから近くで福寿草自生地はないかという話がありました。調べていたら丹後の山歩きHPの中に自地の情報を得て、その近くと思われる京丹後市の小野小町資料館に問い合わせたら詳しいと思われる方を紹介してくれました。

その方に連絡をとり自生地へのアクセス図を頂いたので3月に引き続き丹後半島に出かける心算で舞鶴の高水間さんに連絡をとると他にも如意寺のシャクナゲやミツバツツジも有るから纏めて行こうとなった。自生地紹介者の情報と天候を見て4月13日早朝から舞鶴に向かった。

福寿草自生地は道が複雑というので高水間車に乗り換えて出発した。小町公園から先は車ははみ出しそうな怪しげな道であったが目当てのブナハウスに到着、付近を捜していると程なく満開の福寿草群生地に出くわした。かなりの広さと株数もある紛れもない福寿草自生地であるが、マイナーな場所と見えて他に人もいない。ブナハウスは周辺の山ハイカーの為の休憩所とトイレらしい。残雪で今は行けないがここから歩行で細川ガラシャ夫人隠棲の地にも行ける事が分った。ならば、3月9日の静御前に続いて今日は小野小町ゆかりの小町公園、ガラシャ夫人のゆかりの地（丹後の三大美人という事になっているらしい）にも立ち寄る予定となった。



京都府京丹後市五十河・福寿草
同じ京丹波市久美浜の真言宗如意寺はシャクナゲとミツバツツジが見ごろで他にも野草を大事にしている大伽藍であった。



京都府京丹後市久美浜如意寺・シャクナゲ
如意寺を後にカーナビも通用しない山道に分け入り味土野の細川ガラシャ夫人隠棲地に着いた。
今は無人の谷間であるが、小さな集落跡が分る丘にその記念碑は立っていた。明智光秀の娘ゆえに父が秀吉に敗れて夫人にも危機が迫ったが、夫の細川忠興が味土野に隠れさせて難を逃れた話は多くの小説にも出てくる。この旅で丹後の三大美人ゆかりの地の詣も終わった。

0422 我が家のかざぐるま（自生種）初開花

昨年6月県内のかざぐるま自生地保存会の指導のもとにかざぐるまの挿し芽をして育てていましたが、6株が根がついたようなので昨年暮れに一株ずつ別の鉢に移植してメンテを続けて順調に新芽を出して伸び始めていました。

そのうちの1株に花芽が付いて4月22日には開花し始めて嬉しい限りです。



0425 差し芽から初めて咲いたかざぐるま
0608～0612 霧多布・厚岸・釧路湿原・花の旅

霧多布・厚岸湿原は2021年に国定公園に指定された。しかし国立公園の釧路湿原と共に釧路・根室・十勝地域を仕事で永らく担当した私も湿原内の動植物までは当時は行動が伴わなかった。

0608 Peach125 便の着陸後の移動時間を考えて昼食は機内で済ませて空港から真っ直ぐに霧多布岬へ向かった。45年余り前には家族でよく来た岬だったが随分整備されて歩き易くなっていた。北海道では既に絶滅したとされるラッコが近年ではこの岬で生息始めたという話を聞いていたので白花エンレイソウやハクサンチドリ等の植物を気にしながらラッコを求めて双眼鏡で探す。簡単には見つかるまい、と思っていたが海面を覆う海藻に交じって親子ラッコが居るではないか。お花畑になった岬の断崖から海面を見下ろすのでラッコまで100m余りの距離がある、沖合にも別の単独行動のラッコも見える。近いラッコからカメラで撮りまくった。



北海道浜中町霧多布岬・藻場にいる親子のラッコ

0609 この日は霧多布湿原で本命のハナシノブを見つけたいのだが、先日まで異常な寒波が続いて開花していないというので湿原内の木道を全部歩いて探す事に、琵琶瀬・奥琵琶瀬・仲の浜木道を4人組が歩く。幸いにも初めに歩いた琵琶瀬木道ではハナシノブは開花が始まっており花を見る事ができた。ワタスゲ、ミツガシワ、ハクサンチドリ、カラムツソウ等が多い。昼は湿原センターに向かい昼食と花情報の交換、昼食後は湿原センターに近いヤチボウズ木道を歩く。湿原カヌーツアーは15:30スタート。湿原内の琵琶瀬川をカヌーで進む、木道からは見えなかった丹頂鶴や鹿の群れ、赤脚しぎなど水鳥も見える。



霧多布湿原・琵琶瀬川のカヌーツアー



霧多布湿原・ハナシノブ

0610 この日は霧多布から太平洋沿いに山と岬やアヤマが原を超えて漁港で著名な厚岸町へ。昼食後は厚岸湿原カヌーツアーを楽しむ。



厚岸湿原・カヌーツアー

0611 釧路湿原・最深部キラコタン岬・コッタロ・細岡展望台

釧路湿原最深部のキラコタン岬は鶴村村教育委員会を通して文化庁の入林許可証を事前取得して入林します。前泊地が厚岸ですが今は釧路市街地を迂回するバイパスが湿原側に整備されておりスムーズに通過できました。それから先はキラコタン岬登山口への表示がないので鶴居村から送ってもらった地図を頼りに登山口の東屋へ。此处を9:30に出発してキラコタン岬を周遊して正午少し前に登山口に戻りました。途中はカラムツ林や草原もありますが美しいミズナラの広大な純林が続く、岬もミズナラの純林です。枝払もしていないので純林の枝や林越しに蛇行するチルワツナイ川と湿原を眺めますが日本離れした風景です。

熊との遭遇を避ける為、早朝と午後4時以降は入林も避けるように注意されていますが、この日は我々4人以外には昼を過ぎても会わなかったので入林したのは我々1組だけだったかも。岬から撮影した写真には丹頂の雛も写っていましたが旅行が終わって写真と書類を鶴居村に送ってそれを見た係員から指摘されて分かった次第です。



釧路湿原キラコタン岬・チルワツナイ川の蛇行
この日はさらにコッタロと細岡湿原展望台に登り、夕方には釧路市内のホテルに入って汗を流し、釧路営業所時代の旧友達がセットしてくれた錦町の岸壁炉端へこちらの4人組も合流して歓談。



釧路市錦町の岸壁炉端・昔の仲間達と乾杯
おわり